

平成29年度 東京都立蒲田高等学校 学校経営計画

校長 天野 光 芳

1 目指す学校

本校は、平成19年度入学生からエンカレッジスクールとしての教育課程を編成・実施している。エンカレッジスクールとは「勇気づけ、励まし、支援する」学校である。具体的には「高校に入って学び直して学力を確実に身につけたい」「新たな技術や能力を身につけたい」等、意欲はあるけれど、なかなか力が発揮できなかった生徒に対して、特色ある教育を展開することにより可能性を広げ、自らの進路を切り拓く力を育成することを目的としている。よって、以下のような学校を目指す。

- (1) 生徒の実態に応じた学習内容・指導を行い、学ぶ意欲と基礎学力を身につけた生徒を育てる学校
- (2) 他者への理解を深め、協調する態度を持った生徒を育てる学校
- (3) ルールとマナーを重んじ、自己を正しく見つめることのできる生徒を育てる学校
- (4) 高い目標と進路意識をもち、夢の実現に向け努力することのできる生徒を育てる学校
- (5) 地域社会と積極的に関わり、社会貢献できる生徒を育てる学校

2 中期的目標と方策

- ・エンカレッジスクールとして蓄積を踏まえて、本校の特色を明確にしていく。
 - (1) 30分授業、習熟度別授業、少人数授業等により、基礎・基本の定着を図る。
 - (2) 学習内容や指導法を研究し、わかる授業を目指し、達成感・成就感を生徒にもたせる。
 - (3) 生活指導での「段階指導」に学校全体で取り組み、ルールを守る態度を育て、社会性と規範意識を身につけさせる。
 - (4) 体験学習・宿泊体験研修を充実させ、関係自治体・NPO法人・市民講師との連携を深め特色ある教育活動を堅持する。
 - (5) 外部機関との連携を深めながら学校教育相談体制を充実させ、特別支援教育への理解を深めることで生徒の特性に適切かつ組織的に対応する。
 - (6) 地域活動に積極的に参加し、地域貢献する学校づくりを行う。
 - (7) 勤労体験学習等を通して職業観や勤労観を育て、地域社会の一員であることの意識を高める。
 - (8) 学習活動、体験学習、部活動等の様々な機会を通して、各種検定資格の取得を推進する。
 - (9) 学校行事、ホームルーム活動、委員会活動、部活動等に積極的に取組ませ、コミュニケーション能力を高めるとともに生徒に自信をもたせる。
 - (10) 朝学習を定着させ基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣や基本的生活習慣を確立させる。
 - (11) 心と体の健康づくりを推進することにより健全育成を図る。

・今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学習指導

ア 「社会人としての教養」と「学力スタンダード」により、学力を確実に定着させるとともに、基礎学力の一層の「定着・伸長・発展」を図る。

- イ アクティブラーニング推進校として、授業を主体的・対話的でかつ深い学びに改善することにより、生徒の学ぶ意欲を育成するとともにわかる喜びを実感させる授業を実践する。
- ウ 体験学習を通して生徒一人一人の自己の可能性を広げさせ、自己有用感を高めさせる。
- エ 授業規律の確立と学ぶ環境の醸成に学校全体で取り組む。
- オ 30分での短時間集中授業と反復学習を活用して効果的な教授法を確立する。
- カ ICT機器を積極的に活用し、効果的に学習指導を進める。
- キ 小テストや確認テストをこまめに実施し学力の定着を図るとともに、評価においては、テストによって確認できる成果としての知識量や理解度のみならず、学習の過程も重視した評価を行う。
- ク 体験学習や宿泊体験研修を通して、新たな「能力・技術」を発見させ、地域貢献や地域行事等への参加により生徒の可能性を広げさせる。
- ケ 生徒の学習レディネスや指導内容・方法等に関する研究を一層進め、学校が設定する学習目標へ到達するよう、学力の向上を図っていく。
- コ 教科「人間と社会」を活用して、人間としての在り方生き方に関する自覚を深め、道徳的実践力を高められるよう教育の充実を図る。
- サ 学校図書館の活用を進め、読書活動の充実を図るとともに、書評合戦への参加を積極的に推進する。
- シ 特別活動や授業等に言語活動を導入し、他人との考えを理解・調整しながら、自らの考えを発表することができるコミュニケーション能力の育成を図る。
- ス オリンピック・パラリンピック教育との連携を図りながら、授業や特別活動等において、日本の伝統・文化に関する取組を充実させ、体験や交流を通じて日本の伝統・文化への理解を深めるとともに、習得したことを積極的に発信しようとする態度を育成する。

②進路指導

- ア 3年間を見通した進路指導を、進路指導部を中心として、各学年と協力して進めていく。
- イ 社会的・職業的自立支援教育プログラムの活用やNPO等との連携を含め、あらゆる場面を活用して、生徒の個性・特性・適性・能力を把握し、その伸長に努め、生徒の多様な進路希望を実現する。
- ウ 学力診断テスト等、外部模試を実施し生徒の学力を把握するとともに、結果を分析して弱点を克服するための指導を各教科で計画的に推進する。
- エ 生徒との二者面談のみならず保護者を交えた三者面談を適宜実施することにより、生徒、保護者、担任の相互信頼関係をより高め、三者が一体となった進路指導を推進する。
- オ 授業・個別指導・部活動・委員会等の指導を通して築いた信頼関係に基づく進路指導を、担任や保護者と連携しながら行う。

③生活指導

- ア 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導を進める。都立高校生活指導指針に基づき、「社会人として身に付けさせる規律・規範」の目標の5項目について、取組を推進するとともに、「授業開始のチャイムとともに授業を開始し、生徒に「時間を守る」意識を育成する」ことの徹底を図る。
- イ 人権教育を基軸とした生活指導を推進し、特にいじめの未然防止に努めるとともに、万一発生した場合には、迅速かつ誠実に解決できる学校づくりを推進する。
- ウ 厳しい生活指導を実施することでルール・マナーを守り、礼節を重んじる態度を育てる。
- エ 始業式、終業式、全校集会を通して、集会規律の確立と話を聴く態度の育成を図る。
- オ 段階指導や巡回指導に学校全体で組織的に取り組む。
- カ 学校生活や集団生活の中で、他者を理解し思いやる心を育成する。
- キ 校内美化・校内リサイクル運動の学校全体での取組を推進する。

ク セーフティ教室・防犯教室等を年間行事に積極的に取り入れ、安全教育を計画的に実施する。

④特別活動・部活動

- ア 「体力気力鍛錬道場」の指定を活用して、生徒の体力・気力を向上させるとともに、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感等を育成することにより、特別活動の充実を図る。
- イ 誇りのもてる学校づくりのため、生徒会活動・学校行事・部活動の振興を図る。
- ウ 部活動指導を通して生活指導・進路指導・地域活動を推進する。
- エ 全校生徒が意欲的に取り組み、達成感や帰属意識が高まるように体育祭、文化祭を実施する。
- オ 全教員が顧問となり全校挙げて生徒の活動を支援するとともに、生活指導面を重視した部活動の育成を図る。
- カ 生徒会（樟友会）が学校行事・委員会活動・部活動・地域活動のリーダーとなるよう適切な人材育成指導を行う。
- キ 創立40周年にあたり、学校の歴史と伝統に対して敬意を表し、教育活動の充実と発展の動機付けを図る。

⑤健康づくり

- ア 「体力気力鍛錬道場」の指定を活用して、心と体の健康づくりを推進し、生涯にわたる健康の基礎づくりを行う。
- イ 外部機関等と連携した教育相談体制をさらに充実させ、特別支援教育についても実践していく。
- ウ 共感的理解と受容的態度を基本とした生徒理解の充実を目指し、情報交換会や校内研修を定期的に開催し生徒情報の共有化をはかる。
- エ 発達障害への理解を深め、支援が必要な生徒に対して教育支援委員会を活用して組織的な対応を行う。
- オ 学校保健委員会を定期的に開催し、「心と体の健康づくり」を推進する。
- カ 薬物乱用防止講演会や救急講習等を定期的に実施する。

⑥募集・広報活動

- ア 保護者、地域との連携を図り、情報を発信し続ける「開かれた学校づくり」をさらに推進する。
- イ 学校運営連絡協議会の計画的な開催、学校経営計画に基づく学校評価を実施して、課題改善に取り組む。
- ウ 生徒・教職員ともに地域活動・地域行事へ積極的に参加する。
- エ 学校紹介のホームページを定期的に更新する。また、中学校訪問等の広報活動を経営企画室も含む全教職員で展開する。
- オ 授業公開・学校見学・学校説明会を積極的に開催する。学校説明会では教職員が学校の教育方針や教育課程等について効果的な説明を行うことにより、中学生や保護者が蒲田高校についての理解を深められるように努める。

⑦学校経営・組織体制

- ア 信頼される学校づくりのため、校長の意思決定を支え迅速に実行できる組織体制を整え、「学校経営計画」に基づいた学校経営を行う。
- イ 生徒のために使命感をもって職務遂行する教職員の育成に努める。
- ウ 企画調整会議の一層の充実を図り、分掌間の調整機能を高め、円滑な学校運営と迅速な課題解決を実行する。
- エ 人事考課制度に基づく、自己申告・授業観察・面接・業績評価を適正に実施し、教職員の能力開発・人材育成・資質向上に努める。
- オ 学校運営連絡協議会の学校評価結果等を踏まえて課題を明確にし、課題に対する共通認

識をもって学校全体で改善に取り組む。

- カ 予算調整会議を適正に運営し、学習環境等、真に生徒の学校生活の向上を目的とした予算編成を行い、効率よく計画的な執行を行う。
- キ 年4回の防災・避難訓練、宿泊防災訓練等を実施し、生徒の防災意識を高めるとともに地域の一員としての自覚を醸成する。
- ク 中途退学を減少させるために、生活指導や進路指導を充実させ、生徒が学校生活に充実感を感じられるように指導を行うとともに、カウンセリングマインドを基軸とした生徒理解に学校全体で取り組む。また、「自立支援チーム」と教育支援委員会が連携し、早期での対応を実現していく。
- ケ サービスを厳正し、サービス事故ゼロを目指す。特に体罰禁止の基本的考え方を徹底し、引き続き体罰を「しない、させない、許さない」学校風土を醸成していく。
- コ 組織内の対応を迅速かつ円滑に行うため処理手順をマニュアル化するとともに、仕事の効率化等ライフ・ワーク・バランスの推進に向けた取り組みを行う。

(2) 重点目標

①学習指導

- ア 授業の分かりやすさについての満足度の肯定的意見 75%以上。
- イ 授業規律と学習環境についての肯定的意見 60%以上。
- ウ きめ細かく手厚い学習指導についての満足度の肯定的意見 70%以上。
- エ 各学年で実施される学力テストの最下位層からの脱却 20%以上。

②進路指導

- ア 大学進学希望者の進路決定率 100%。
- イ 学校斡旋の就職希望者の進路決定率 100%。
- ウ 進路に関わる本人の意思確認・家庭状況の把握のため、3年生での個人面談・三者面談を3回以上実施。
- エ 3年生の「個性・適性に応じた進路指導ができている」という肯定的回答率 70%以上。
- オ 進路決定率 90%以上。

③生活指導・特別活動・部活動

- ア 1年生での段階指導取り組みに対する肯定的意見 65%以上。
- イ 学校行事の満足度 70%以上。
- ウ 地域活動・地域行事への参加推進、参加者（生徒・教職員）100人以上。
- エ 部活動振興を目標に、部活動の加入率（年度末）70%以上。
- オ 一日の遅刻者数のクラス平均3人以内。

④美化・健康づくり

- ア 清掃に取り組んでいるという回答率 70%以上。
- イ 学校教育相談体制が有効に機能しているという回答率 70%以上。
- ウ 学校教育相談に関する生徒情報交換会と校内研修を年間計8回以上開催。

⑤入試・募集・広報活動・学校生活に対する満足感

- ア 東京都中学校校長会進学対策委員会の志望倍率 1.2倍以上、実質競争倍率 推薦 1.8倍以上、前期 1.5倍以上、後期 1.3倍以上。
- イ 学校見学（随時）、学校説明会の自校実施（11回）。
- ウ 「学校生活に対する満足度」70%以上。
- エ ホームページの更新回数 80回以上。
- オ 転退学率 9.5%以下(50人以下)。